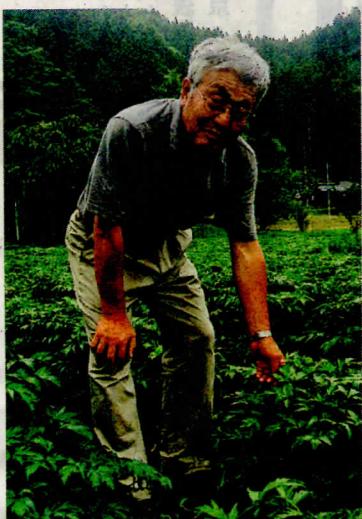


中山間地の地域づくりに励む一関・下内野 自治会会长



一関市大東町の下内野自治会
長さん

長となり、10年目を迎えた。農業基盤整備や水質保全活動、そして国際交流。41世帯でつくられた山あいの小さな自治会とは思ひません。わせない幅広い活動を展開する。

部

大船渡工、千厩高などで教へんを執った後、農業に従事。「古里のためになりたい」と自治会長に就任した。

かつ勝
一
さん
長と
り行
て情
報發
信に
も励
む。

の20年の歩みを記した記録集「緑と水の里 しもうちの夢紀行—続20年の歩み」を刊行した。ホームページやフェイスブックで情報発信にも励む。

毎月1日に「腹を割つて何で

も話そう」と飲み会の「モツ会」

を開催する。「コミュニケーションを密にする」ことが地域づくりで大切なことだと持論を語る。

ひと

県内外で活動が評価され、これまで受けた表彰は数多い。

近年の新機軸は「かじかの里薬草栽培研究会」の結成だ。トウキ(当帰)などの薬草を試験的に育て、将来的には高収益作物の安定栽培を目指す。

青々と薬草が生い茂る自宅近くの畠の風景を眺め「うまくいくてくれるといいね」と願う。そのままなぎしさは、地域のことを思えばこそ真剣だ。

妻と2人暮らし。同市大東町出身。70歳。

(一関東文局・山内俊一)